

人文社会学専攻

—学位授与・教育課程編成・入学者受入れの方針—

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

人文社会学専攻は、歴史、社会、文化、自然、地域などの諸分野を対象とした各専門領域を深めるとともに、学際的に諸問題を探求できる人材を育成します。本専攻では、歴史学、地理学、社会学の各コースが有機的に連携して、社会科学や人文科学、さらに自然科学に及び多彩な研究教育を行っています。各コースに共通することとして、明確な問題意識に基づいて課題を設定し、その課題に主体的・積極的に取り組む意欲と努力が求められます。

【身につけるべき力】

- 多様な資史料を活用し、幅広い知識と視野を習得するための読解能力
- 変貌する社会・文化に対する批判的な観察力と的確な分析力
- 他者と議論し知見を深めるための実践的なコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では特論、演習などを通して高度な専門教育を行います。キャリア形成群では高度な職業能力を開発するための教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

本専攻では、資史料の読解、調査・分析の適用、フィールドワークの実践などを通して、過去から現在に至る人間の諸活動を理解するための、論理的かつ柔軟な考察力を身につけることを重視します。また学際的な視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働

する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

人文社会学専攻は、歴史学、地理学、社会学のいずれかを基盤として、学際的に諸問題を探求できる人材を育成することを目的としています。従来の枠組みにとらわれることなく、関連分野に対しても熱いまなざしを注ぐことができる意欲的な学生を望みます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 専門分野に関する基礎的知識
- 資史料や文献を読み解くための語学力
- 調査・分析、フィールドワークなどを行うための研究方法に関する経験・知識
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を広く社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

コースごとに、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、6年一貫教育プログラム特別選抜を実施します。大学院で学ぶために必要な専門知識や研究を計画し実施する能力を測るために、筆記試験と口述試験を行って選抜します。

(人文社会学専攻 歴史学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

歴史学コースは、日本史、東洋史、西洋史、考古学、美術史の専門領域を深めつつ、幅広い歴史的思考と方法を身につけ、さまざまな地域、時代の政治、文化、社会のありようについて、自分の関心や現代社会の諸問題をふまえながらアプローチできる人材を育成します。したがって、本コースでは、明確な問題意識に基づいて課題を設定し、その課題に主体的・積極的に取り組む意欲と努力が求められます。

【身につけるべき力】

- 多様な資史料を活用し、幅広い知識と視野を習得するための読解能力
- 変貌する社会に対する批判的な観察力と的確な分析力
- 他者と議論し知見を深めるための実践的なコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では日本史、東洋史、西洋史、考古学、美術史の特論、演習を通して高度な専門教育を行います。キャリア形成群では高度な職業能力を開発するための教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

歴史学コースでは、資史料の読解、調査・分析の適用、フィールドワークの実践などを通して、過去から現在に至る人間の諸活動を理解するための、論理的かつ柔軟な考察力を身につけることを重視します。また学際的な視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目指すとともに、留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試験により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

歴史学コースは、日本、アジア、ヨーロッパを中心に、政治史、社会史、思想史、文化史、考古学、美術史といった多様な視点、方法により、歴史をめぐる問題について研究を行います。さまざまな言語で記された文献の読解・分析、人間が創り出したモノや作品も含めた資史料の調査、フィールドワークなどに関する高度な知識や技法を身につけるとともに、人文・社会科学、自然科学等の分野を問わず必要とされる歴史的思考を培います。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 日本史、東洋史、西洋史、考古学、美術史に関する基礎的知識
- 文献を読み解くための語学力・分析力
- 資料の調査・分析、フィールドワークなどを行うための方法に関する経験・知識
- 自由な発想に基づく独自の課題に主体的・積極的に取り組む能力
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

歴史学コースで学ぶ上で必要とされる日本史、東洋史、西洋史、考古学、美術史の基礎学力を、筆記試験と口述試験に基づき評価します。

一般選抜

筆記試験では、専門科目（日本史、東洋史、西洋史、考古学、美術史）と外国語科目（英語）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力、外国語読解力を評価します。口述試験では、志望動機、研究内容、表現力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、専門科目（日本史、東洋史、西洋史、考古学、美術史）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究内容、表現力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、専門科目（日本史、東洋史、西洋史、考古学、美術史）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究内容、表現力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。

(人文社会学専攻 地理学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

地理学コースは、人文地理学、自然地理学、地誌学の専門領域を深めるとともに、社会・経済・文化、環境問題、自然災害などに関わる地域研究も視野に入れながら、文系・理系の知を融合する総合的な科学の構築を目指しています。野外調査を含む地域調査の実践やそれら調査結果の分析を通して、人間活動と地域・環境との関係性を理解する能力や、地域が直面する諸課題の把握と解決に向けた論理的かつ柔軟な考察力を養います。自らが主体的・積極的に課題を設定し、その課題に取り組む意欲と努力が求められます。

【身につけるべき力】

- ・人間活動と地域・環境との関係性を多面的に捉える鋭い観察力と的確な分析力
- ・地域に関わる多様な資料・情報・データの分析に必要な高度な技術・知識
- ・他者と議論して深めた知見を、正確な情報やデータとともに広く社会に発信する力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では人文地理学、自然地理学、地誌学に関する特論、演習を通して高度な専門教育を行います。キャリア形成群では高度な職業能力を開発するための教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

地理学コースでは、野外調査を含む地域調査の実践やそれら調査結果の分析を通して、人間活動と地域・環境との関係性を理解する能力や、地域が直面する諸課題の把握と解決に向けた論理的かつ柔軟な考察力を身につけることを重視します。また学際的な視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質

の高い修士論文を目指すとともに、地域調査、資料・データ収集、インターンシップ、留学など、学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

地理学コースでは、人文地理学、自然地理学、地誌学に加え、社会・経済・文化、環境問題、自然災害などに関わる地域研究も視野に入れながら、人間活動と地域・環境との関係性を多面的に研究しています。上記の諸学問の理論を学ぶとともに、地域調査データや地理情報の高度な解析・分析手法、インタビューやアンケートによる調査方法などを身につけるための教育を行います。このような専門的な技術・知識を活かしつつ、地域が直面する諸問題を的確に把握し、その解決策を導き出すために多様な人々と協働して、主体的に研究を進めていく学生を育てます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 地理学（人文地理学、自然地理学、地誌学）に関する基礎的知識
- 地域調査を自ら計画・実践する能力
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

地理学コースで学ぶ上で必要とされる基礎学力を、提出書類（研究計画書、あるいは本コースに関連する論文）および筆記試験、口述試験に基づき評価します。

一般選抜

筆記試験では、専門科目（地理学）と外国語科目（英語）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力、外国語読解力を評価します。口述試験では、主体的に学ぼうとする意欲、研究計画、表現力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、専門科目（地理学）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、主体的に学ぼうとする意欲、研究計画、表現力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、専門科目（地理学）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、主体的に学ぼうとする意欲、研究計画、日本語または英語によるコミュニケーション能力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。

(人文社会学専攻 社会学コース)

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位の前提となる教育理念】

社会学コースは、人々のつながり（関係）とそのつながりを基礎とした仕組み（制度・構造）と、それらを持続あるいは変化させる媒体（文化・コミュニケーション）を研究対象としています。人間の多様性やグローバル社会への視座も重視しながら、高度で専門的な社会学的思考力と分析技法を習得します。さらに、社会学的な探究と関わりの深い文化人類学や、ジェンダー論、観光論、メディア論なども学びつつ、現代社会において解明すべき課題を自ら設定し、その課題に積極的かつ独創的に取り組む能力を身につけます。

【身につけるべき力】

- 多様な資史料や情報・データを活用し、幅広い知識と視野を習得するための読解能力
- 変貌する社会と文化に対する批判的な観察力と的確な分析力
- 他者と議論し知見を深めるための実践的なコミュニケーション能力

【学位授与の要件】

上記の資質・能力を身につけ、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文の審査に合格した学生に修士（文学、学術のいずれか）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学生は履修系列として、高度な専門的能力を養成する専修系、広い視野を備えた多様なタイプの優秀な人材を育成する複合系のどちらかを選択し、以下の科目群から履修します。教養科目群では大学院生に必要な教養を培います。専門群では社会学、文化人類学、ジェンダー論、観光論、メディア論などに関する特論、演習を通して高度な専門教育を行います。キャリア形成群では高度な職業能力を開発するための教育を行います。論文等作成群では修士論文の執筆に向けて指導を行います。

【教育の内容と方法】

社会学コースでは、文献・資料・情報・データの読解、調査・分析の適用、フィールドワークの実践などを通して、社会と文化をめぐる諸問題を理解するための、論理的かつ柔軟な考察力を身につけることを重視します。また学際的な視野からものごとを俯瞰する能力、実社会で必要とされる企画・調整力及び他者と協働する力を培うための大学院教養科目を必修としています。さらに文学部からの6年一貫教育プログラムでは、学部から修士論文作成まで継続的に研究を行い質の高い修士論文を目

指すとともに、留学など学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。

【学修成果の評価】

学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。修士論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

社会学コースは、人々のつながり（関係）とそのつながりを基礎とした仕組み（制度・構造）と、それらを持続あるいは変化させる媒体（文化・コミュニケーション）を研究対象としています。人間の多様性やグローバル社会への視座も重視しながら、高度で専門的な社会学的思考力と分析技法を習得します。さらに、社会学的な探究と関わりの深い文化人類学や、ジェンダー論、観光論、メディア論なども学びつつ、現代社会において解明すべき課題を自ら設定し、その課題に積極的かつ独創的に取り組む能力を身につけます。

【求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、次のような資質と能力を有する学生を求めます。

- 社会学全般に関する基礎的知識
- 資史料や文献を読み解くための語学力・分析力
- 調査・分析、フィールドワークなどを行うための研究方法に関する経験・知識
- 調査結果や文献などを適切に分析し、論理的に説明する能力
- 大学での学修・研究を基盤とした明確な研究展望
- 社会生活に根ざした真摯な問題意識
- 大学院における研究を社会に還元する意欲

【入学者選抜の基本方針】

社会学コースで学ぶ上で必要とされる社会学の基礎学力を、提出書類（研究計画書、あるいは本コースに関連する論文）、および筆記試験、口述試験に基づき評価します。

一般選抜

筆記試験では、専門科目（社会学）と外国語科目（英語）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力、外国語読解力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

社会人特別選抜

筆記試験では、専門科目（社会学）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

外国人留学生特別選抜

筆記試験では、専門科目（社会学）を課し、専門分野に関する基礎知識、論述力を評価します。口述試験では、志望動機、研究計画、表現力を評価します。

6年一貫教育プログラム特別選抜

書類審査により、6年一貫教育プログラムのもとで行われた調査・研究状況、今後の研究展望、主体的に学ぼうとする意欲を評価します。